

I はじめに

日本で鉄道が走り始めてから約150年、自動車が走り始めてから約100年が経過した。この間、絶え間ない技術革新や社会整備が進められた結果、私たちはとても便利で快適な移動手段を手にすることができた。とりわけ自動車の普及は、多くの国民に豊かな生活をもたらしたといっても過言ではない。しかしながら、自動車や自転車などの事故により、大けがを負ったり、命を落とす人がいることも現実である。

今後も自動車をはじめとするモビリティは、ますます進歩を続けていくことであろう。しかしそれと同時に、どのようにすれば安全で安心なモビリティ社会を作っていくことができるかということも考えていく必要がある。現在、どのような工夫がなされているのか、今後どのような環境を作っていくのか、安全で安心なモビリティ社会の構築のために、自分たちは何を知っておく必要があるのかを考えさせたい。

II 学習目標

- 安全で安心なモビリティ社会の構築のために、何をすべきなのか考え、行動することができる。
- 交通安全の重要性と意義を理解したうえで、自分たちの街のモビリティの課題を把握し、かつ安全なモビリティ社会の実現のために政策を提言することができる。

III 授業の流れと解説

1. AとBの写真を見て、危険な場所についてワークシートに書かせるとともに、「自転車に乗っていて、『ヒヤリ』とした、または危ないと思った経験を話してみよう」と発問し、普段の自分たちの経験から交通に関する課題について考えさせる。
 - CとDの写真を見て、現在施されているさまざまな配慮について確認をし、それらを参考にしながら、危険を回避するために、自分たちで工夫できることを話し合わせる。
 - 会話文を読み、高齢者の運転免許返納について議論させる。その際、高齢者のモビリティの確保についても視点を当てるように配慮する。
2. 交通安全の重要性・意義について確認する。
 - そのうえで、A：ルールや自転車の運転免許、B：ルールの周知方法、C：道路環境整備の視点から、どのようなことが考えられるかについて検討する。
 - 「学校周辺の通学路について課題を書き出してみよう。」と発問し、通学路の交通施策について関心を持たせ、改善すべき政策を「安全なモビリティ社会の実現」という視点に基づいて考えさせる。
 - 「学校周辺の通学路の交通施策について、生徒の立場から政策提言をすることになりました。“安全なモビリティ社会の実現”という視点に基づいて政策を提言しよう。」と課題を出し、通学路及び地域に必要なことは何かを考え、政策提言書を作成する。

【空欄の想定解答例】“⇒”以降では、議論を深めるためのさらなる視点を掲載しています。

1. 写真を見て考えよう

WS1-(1) ア) ここが危ない

- ・A: 当たり前のように(我が物顔で)歩道を走っている/ぶつかりそうになっているのに止まろうとする気配がない/さも歩行者のほうが悪いと言わんばかり
- ・B: 自転車が無理やり横断歩道に入ってきている/横断歩道を通るなら自転車から降りなくてはいけない/自転車は車両だから逆走していることになる/自転車が歩行者のことも左折しようとしている自動車のことも気にしていない

WS1-(1) イ) ヒヤリとした経験

- ・角を曲がるとき、突然歩行者(自動車)があらわれた/歩道を走っているとき正面からきた自転車が減速すると思ったら、そのまま進んできてぶつかりそうになった/車道を走っていて左折しようとしたとき自動車がすれすれのところを走っていった/後ろからきた自動車に追い越されるとき幅寄せされた

⇒実際に自転車で走る道の特徴などを考えながら、具体的にどこでどんなことが起きたかを考えてみましょう。

WS1-(2) ウ) わかること・気づいたこと

- ・C: 自転車の走るところを決めてあると安心できる/自動車側にも自転車の走行場所だということがわかって良い/できるだけ自転車の走行場所を確保してほしい

⇒標識や道路標示などで、こんなものがあると安全に貢献すると思うものは何でしょう。

- ・D: 目の錯覚を利用したスピードの出し過ぎをしないための工夫/クルマのスピードが落ちるので、自転車も安全に道路の左側を通行できる/立体的に浮き上がって見えるものもあるから、そういうものは効果がありそう(写真Dはドットラインと言い、車線の内側に太い線を引くことで、車道を狭く見せて速度を落とさせるもの)

WS1-(2) エ) 自分たちでできる工夫

- ・注意すべき場所、その特徴をまとめてみんなに配る/通学路の安全対策についてまとめる/自分たちが走る経路を町の人に知ってもらう

WS1-(3) 高齢者の運転免許証返納について

- ・是) 交通安全ということから考えて返納するのは良いこと/交通事故を起こした人の免許更新は認めない
- ・否) 高齢者であっても移動の自由を奪うべきではない/代替りの移動手段をどうするか考えなければならない(代替交通機関を用意してからにすべき/家族や近所の人への負担が大きくなる)
- ・案) 安全運転をサポートする機能を備えたクルマに限定してはどうか(サボカー限定免許)/免許更新のときの基準を厳しくする/免許更新期間を短くする

2. 交通安全の重要性・意義

WS2-(1) あなたが交通事故にあったら、家族や友人はどう思うだろうか

心配でたまらないだろう/嘆き悲しむ/元気づけないと、とってくれる/悔やむ/責める/事故の相手のことも気にかける

WS2-(2) 考えられる金銭的損失

治療費/保険料/裁判費用/道路を改修する費用

WS2-(3) A-①. ルールの徹底について考えよう

- ・取り締まりを強化する/自転車でも自動車でも違反した人に対する罰則を重くする/自動車の免許制度を改正する(免許取得を厳しくする)

A-②. 自転車の運転免許制度について考えよう

- ・賛成: 自転車が絡む事故が減る/マナーが良くなる/交通ルールを知ることになる/公道を走る車両だから免許があつて当然
- ・反対: 気軽に使える移動手段が奪われる(不便になる)/人力で走るものを免許で規制するべきではない/自転車が安全に走れる環境整備が先/ルール・マナーの教育を徹底すれば良いこと/警察による取り締まりを強化すれば良いこと

【参考】自転車運転免許を発行している高校の多くは、自動車学校に場所を借りて実技試験を行ない、学校で講習(筆記試験)を受けるといった形で実施しています。当財団でも2012年に岐阜県立加茂高校を取材しました。「導入が進む高校での自転車運転免許制度」(トラフィックेशन No.31)

http://www.jaef.or.jp/6-traffication/img/TC%20no31_t.pdf

WS2-(4) B. ルールの周知の方法を考えよう

- ・幼児教育~高校教育で一貫した交通安全教育を行う/高校において「交通安全」の授業を必修化する/運転免許を持っていない人を含め国民すべてが道路交通法について学ぶように国が取り組む

WS2-(5) C. 物理的な仕掛けを考えよう

- ・歩道のあるすべての道に自転車レーンを設置する/交差点では自転車と自動車の走るタイミングをずらす/高

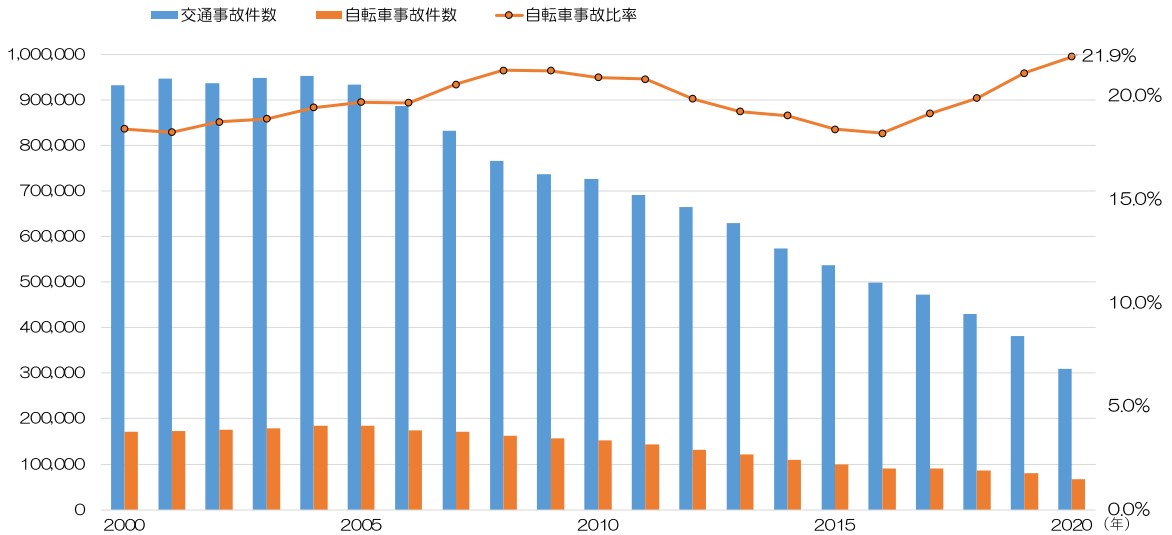
高齢者が横断しているときの歩くスピードに合わせて青信号の時間を変える

WS2-(6)～(8) 学校周辺の通学路についての課題

- ・通学時間帯と通勤時間帯が重なる(混雑時間帯)／道幅が狭く怖いので歩道を走りがちになる／自転車の邪魔をしてくる自動車がある／ルールを守らない(知らない) 自転車が多い／通学路に保育園・幼稚園がある／信号を無視する高齢者をよく見かける

【参考】

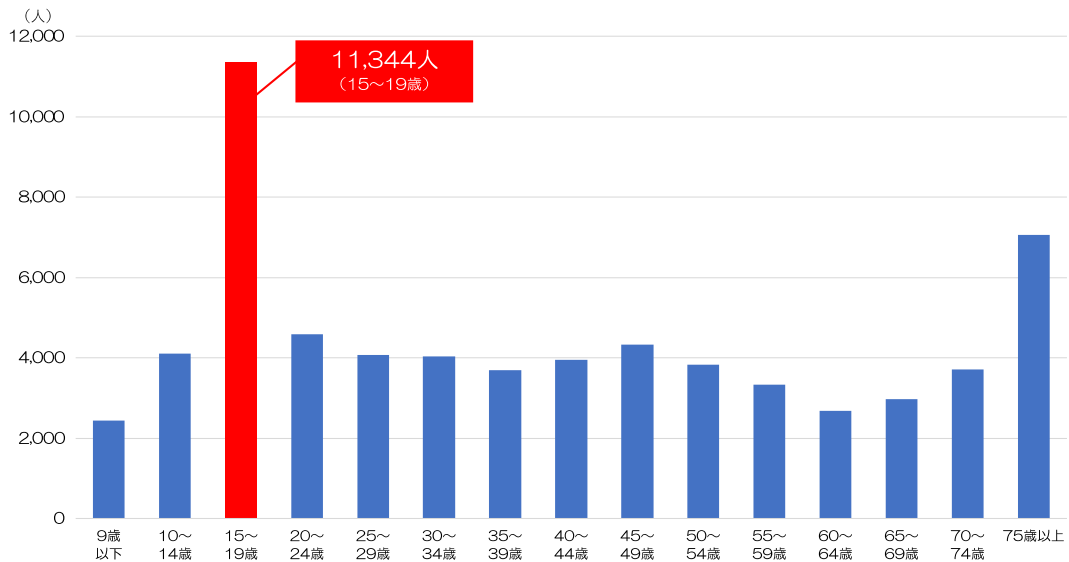
図1. 交通事故件数と自転車事故件数・比率の推移



出典：警察庁

- ・交通事故件数、自転車事故件数とも減少し続けているが、その中で自転車の事故の比率はこの4年間で上昇傾向にある。高校生の重要な移動手段である自転車は、事故の件数こそ減っているがその減少率は全体から見ると鈍い。

図2. 年齢層別自転車事故(自転車運転中の年齢層別死傷者数 2020年)



出典：警察庁

- ・高校生年代の交通事故死者数は、他の年齢層と比べ圧倒的に多い。
- ・自転車が主要な移動手段であるため、例年このような結果となっているが、それだけに高校生の自転車の安全施策が求められる。